

八代海 赤潮による養殖魚等への被害状況視察

令和4年7月27日に熊本県水産研究センターより赤潮警報が発出されて以降、魚介類に対して極めて有害なカレニア、ミキモトイによるトラフグ、マアジ、カサゴ、メジナなど養殖魚の斃死が12日時点で約21万尾確認され、マダイ、シマアジについては出荷を間近に控え更に拡大が懸念されるため、現状を早急に把握すべく、8月13日から16日まで宇城市三角町から水俣市、天草市牛深までの八代海沿岸（熊本県漁連第3部会から第6部会）の視察を行いました。

13日から15日は可能な範囲で関係する漁協への聞き取りや現地確認、必要に応じた組合長と意見交換を行い、16日の視察では、漁業者等が現状抱える問題・課題を直接確認し共通認識とするため藤森漁連会長の要請により熊本県及び熊本県漁業共済組合の関係者が赤く変色している天草市牛深の周辺海域と斃死した養殖魚を水揚げ保管している県海水養殖漁協栖本事業所を視察し、藤森漁連会長から非常事態であることを大前提とした漁業者等が求める喫緊の課題の解消に向けた早期検討と今後の新規要望に係る対応について熊本県の関係者へ強く要望されました。

《視察風景》



【赤潮】



【漁場者等からの聞き取り風景】



【県関係者への要望風景】



【斃死した養殖魚の保管風景】